

# 行き渋り・不登校の対応 2024

第42回発達を見守る会

2024年7月19日

医師 遠藤尚宏

# 対応のポイント

- 周囲の心構えが大切。落ち着きましょう。  
「現状維持でも前に進んでいる」
- （本人がわかっていないことがあるが）周囲は不登校の原因におおむね目星をつけよう
- 正しい対応をすれば、登校できる、というものでもない  
⇨登校したら解決したのか？何がゴールなのか考える
- 保護者には「知識と人脈」が大切

# 不登校 こどもの心理（平成29年度文科省調査より）

- 不安

人とかかわることへの不安、見通しが立たないことへの不安

- やる気・興味の低下

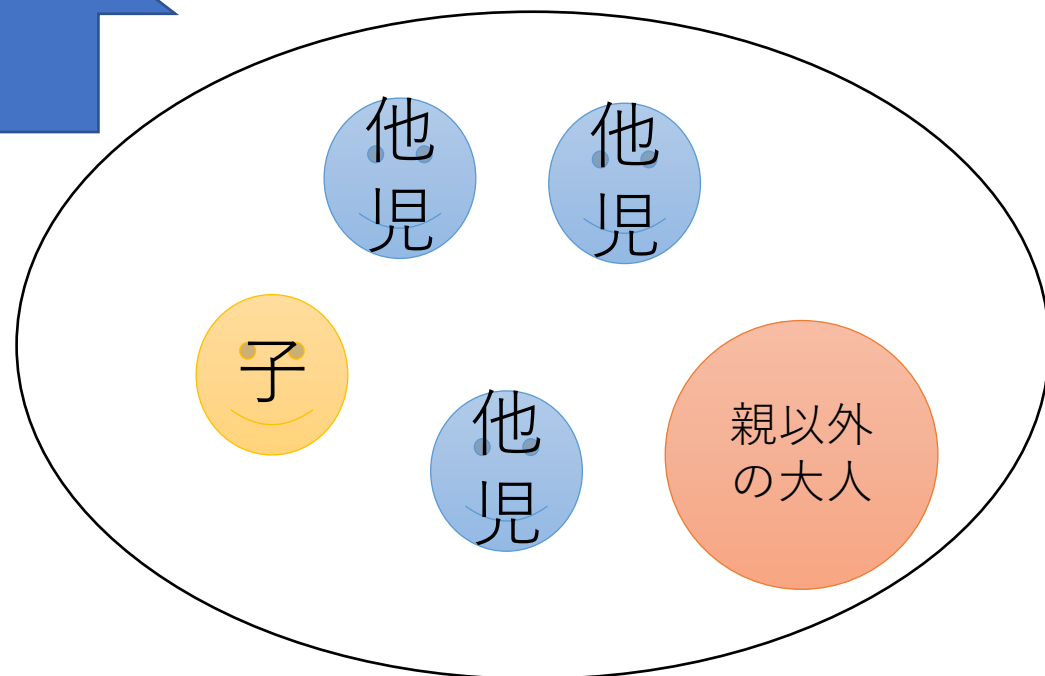
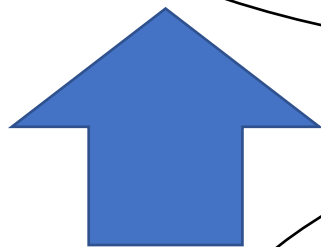
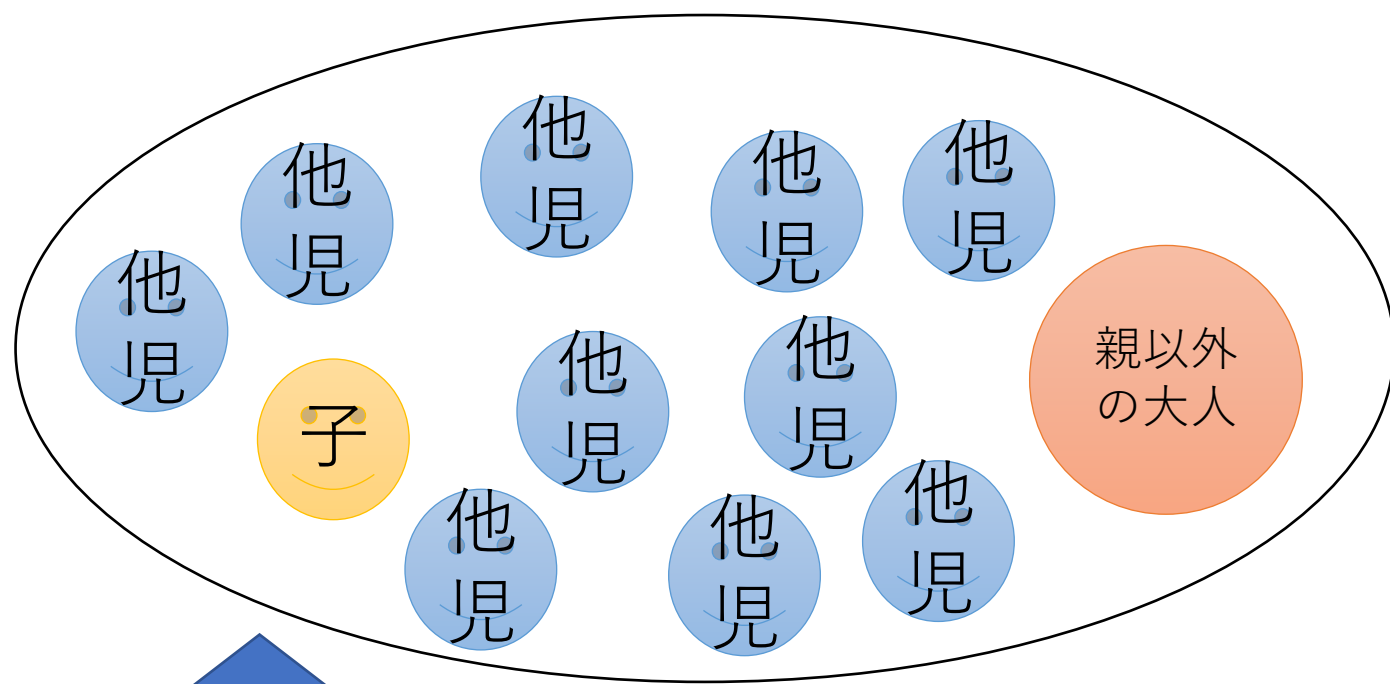
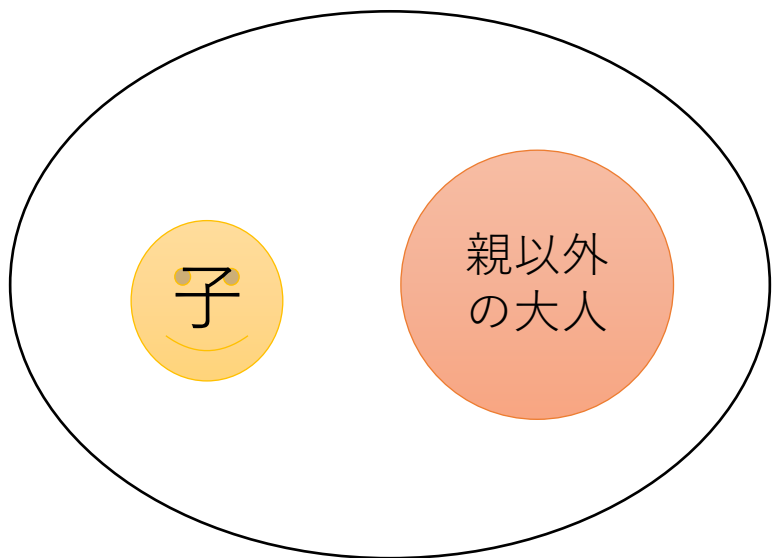
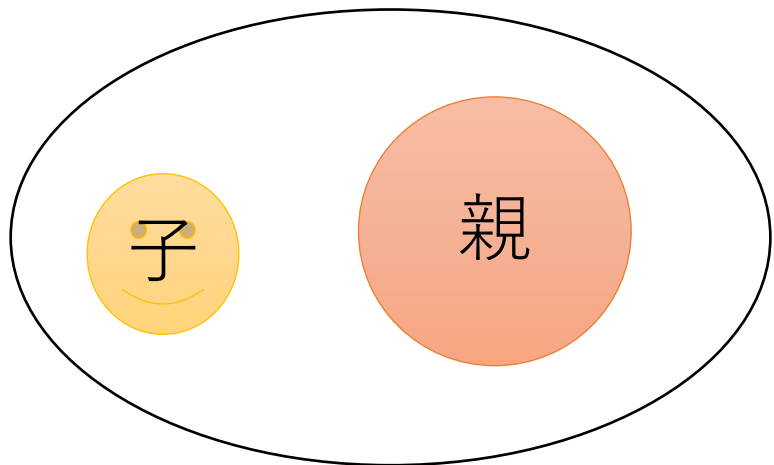
勉強、学校のルール、家庭機能の弱さ

- 対人面での問題

いじめ、教職員との問題

- 個別性（"事例性"）

# 集団への移行



# 子どもの発達：社会性（対人面）

6か月

- ・（1歳半にかけて）他者の表情を意味づけする力が育ってくる（social referencing） 例：段差

1歳

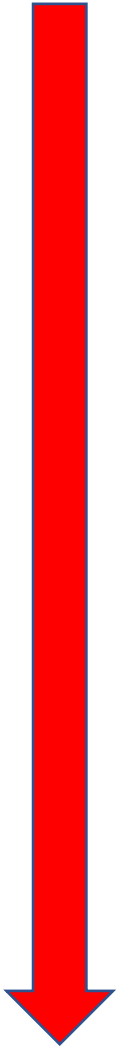
- ・1歳半には愛着による記憶によって自分自身を安心させられる

1歳半

- ・他者の注意を自分の興味の対象物へ向けようとする（joint attention）

2歳

- ・他の子と同じ場所で遊べるようになる  
例：砂場で各々砂遊びをする



# 子どもの発達：社会性（対人面）

- ・ 2、3歳頃から「いい事」、「悪い事」がわかるが、あくまで大人の承認を得たいため。気持ちや考えに一貫性はない。
- ・ 4歳あたりには相手が自分と違う考えを持っていることに気付く (theory of mind)。順番を守ることの大切さがわかるが、不公平だと文句を言う
- ・ 4歳頃から他の子と協力して遊べるようになる。  
例：砂山を一緒に作る。
- ・ 5歳になっても、他の子の視点でものを考えることは多くない

## 子どもの発達：社会性（対人面）

- 6～8歳 時間軸を意識しづらい  
= 後先考えない行動様式
  - 9歳～ 大人のミニチュアのような社会を  
形成しはじめる  
= 「暗黙の了解」が求められる
- 状況を読めない子、視覚的情報がわかりづらい子、他者の思考を読めない子はつらい思いをする

# 思春期の心理発達過程

齋藤万比古を改変





# 自閉スペクトラム症 (ASD) の特性

## ① 社会性の問題

(やりとりが苦手)

人との距離感の問題

(察すること・意味づけすることが苦手)

会話・説明が苦手

(要点をまとめる、言葉で考える、相手の立場に立つことの苦手さ)

## ② 想像性の障害 感じ方の偏り

興味・関心の偏り、執着

ネガティブ記憶が強く残る

概念理解の難しさ

感覚過敏 (特に聴覚)

③ 上記の特性による、日常生活の困難がある

# 就学前後

定型発達では・・・

4歳 相手の立場に立って考えられるようになる

5, 6歳 かんしゃくが落ち着いて、現実的な行動が増える

ASD特性があると：

上記が苦手であるため、集団行動や対人面に支障が出る

就学すると、新しい環境になじむのに時間がかかる、言葉の意味理解が苦手で勉強がわかりづらい、興味のない課題をやりたがらない、などの形で支障が出てくる

# 小学校3, 4年生以降

定型発達では・・・ 8歳 時間概念が育つ、段取りがよくなる  
9～10歳 空気が読める 要領がよくなる

ASD特性があると、

- 説明されたことの意味や要点がわかりづらい
  - 場の雰囲気を読み取りづらい（読めないわけではない）
  - 相手の気持ちや意図を読み取りづらい（読めないわけではない）
- まわりは苦も無くできている（ようにみえる）のに、自分は「うまくできない」、「うまくできているかわからない」と不安になる
- どれくらいが「適当」「適切」がわからないので、がんばりすぎてしまっって疲れてしまう＝“過剰適応”
- まわりから見ると小さいことで大きく傷つく＝“繊細”、“敏感”

HSC  
(HSP) ?

**生きづらさ、行き渋り、不登校、社交不安につながる**

# 注意欠如多動症 (ADHD) の特性

1

じっとできない  
がまんでできない

2

注意散漫  
集中が偏る

3

上記のため、社会生活に支障をきたしている

増やしたい  
行動



褒める  
注目する

減らしたい  
行動



何もせず見  
守る  
(過剰に反  
応しない)

許しがたい  
行動



制限を設け  
る公正に・  
非身体的に

望ましい行  
動を増やす

期限つき

因果関係  
を明確に

一貫性と継続性が大切

# ADHDの行き渋り・不登校パターン

- 行動療法的な一貫性のある対応がされていない  
= 保育・教育者側の感情的な指導  
人や場所によって、対応が統一されていない



注意される頻度が増える、注意されても改善しづらい  
注意する側の声が大きく、厳しくなっていく

→ 批判されるばかりの相手・場所を避ける  
二次障害 (攻撃性、抑うつ)の発症)

# 学習症（LD）の医学的定義（DSM-5）

- 読みの困難
- 文章理解の困難
- 書字の困難
- 算数（計算）の困難

知的障害、視覚障害、聴覚障害、心理社会的困難、教育的指導の不十分さでは説明できない。

学習症とは単に勉強ができないことではない！

**限定した学習面での困難**

**成績と知的レベルの乖離**

**脳機能の問題である**

**= 本人の努力不足や環境面での問題ではない**



# 学習症の不登校パターン

- 気づかれない
- 学習全般の意欲が落ちる
- 適切な支援・指導がない

# 愛着障害

不適切な養育、ネグレクト、心理的・身体的虐待によって  
おこる

情動の不安定さ、癒されない  
大人の表情を過度にみる、異常な警戒心、年齢不相応に大  
人っぽい/子どもっぽい  
多動、攻撃性、スイッチが入ったような器物破損・暴力  
常同行為  
抑うつ、不眠、自傷

障害児は虐待を受ける率が4倍以上、特に自閉症スペクト  
ラム、行動上の問題をもつ児で最も高い。

# 愛着障害の不登校パターン

- 主に対人関係を築けないことによる
- ストレス耐性が弱く、学習の積み重ねが困難になる
- リスクのある関係性、生活のほうに近寄って行ってしまいう

# 不登校の状態評価

状態 0	登校できる	外出できる	ほぼ平常に登校している
状態 1			遅刻・欠席がしばしばある 保健室通いが多い
状態 2			保健室・相談室登校 半分以上欠席
状態 3	登校できない	外出できない	学校以外の施設への定期的参加 ができています
状態 4			比較的気軽に外出できる
状態 5			家庭内では安定しているが、外 出は難しい
状態 6			部屋に閉じこもり、家族ともほ とんど顔を合わせない

# 「適応障害」による不登校（当日図示）

- 一般的に明確なきっかけがあって、その影響が精神的に続くのは6か月程度
- 1か月で急性期は過ぎる
- 6か月以上続く場合は、
  - 原因が持続している（例：加害者が同じクラスにいる）
  - もとから原因があった（例：神経発達症等、社会順応を下げる要素）
  - 新たな状態になっている（例：うつ）

## 不登校の対応 周囲の心構え

- 「現状維持でも前に進んでいる」
- できていることを評価（減点方式<加点方式）
- 不登校そのものは（子どもの）病気や障がいではない
- 不登校は子どもと学校のミスマッチとしてアプローチしたほうがよい

# 対応の原則 1

- 園や学校を好きにさせる、嫌じゃなくすることがゴールとは限らない
  - ＝不快な気持ちにも耐えられる
- 行きたくない気持ちは表出させ、否定しない
  - ＝拒否する権利を認める
- 楽しい事やすでにできていることを強調。できれば増やす

## 対応の原則 2

- スモールステップ
- 予告は大切＝だまし討ちはしない！
- 本人なりの目標・役割を見つける
- 子どもによってはルール（枠組み）作りが必要



個人的に、こどもに必要だと感じるもの

健康・安全の確保が前提

☆（同世代の）仲間

☆居場所

☆学習保障

# ゲーム障害の対応

- ゲームやゲームをしていることそのものを否定しない（リアル  
の居場所が減る）
- 実際に実行できそうなプランを立てる
- 親から子どもへのポジティブな思いに気づいてもらう
- いいところ探し、今できること、1メッセージ、親の感情コン  
トロール

2022 児童青年精神医学会 オンラインゲームの世界と  
子どもたち ー児童精神科医の立場から 関正樹

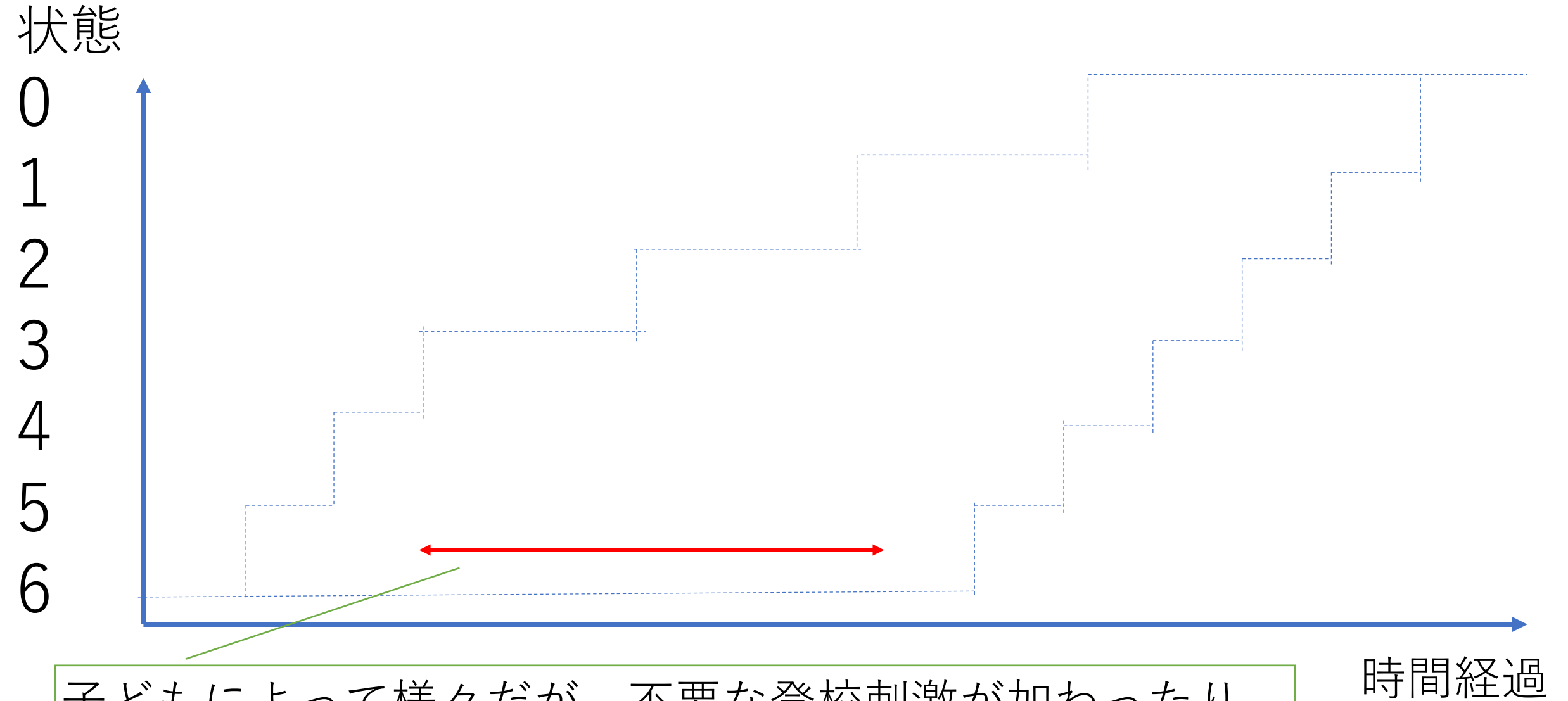
- 取り上げることは難しいが、何らかの社会参加をしたいと思っ  
ているところが落とすところ
- ルールを設けたほうが、時間は短くなる 依存が変わるわけ  
はない

それまでほとんど成人が受診対象だった依  
存・嗜癖医療機関からの視点 中山秀紀

# 不登校の回復過程

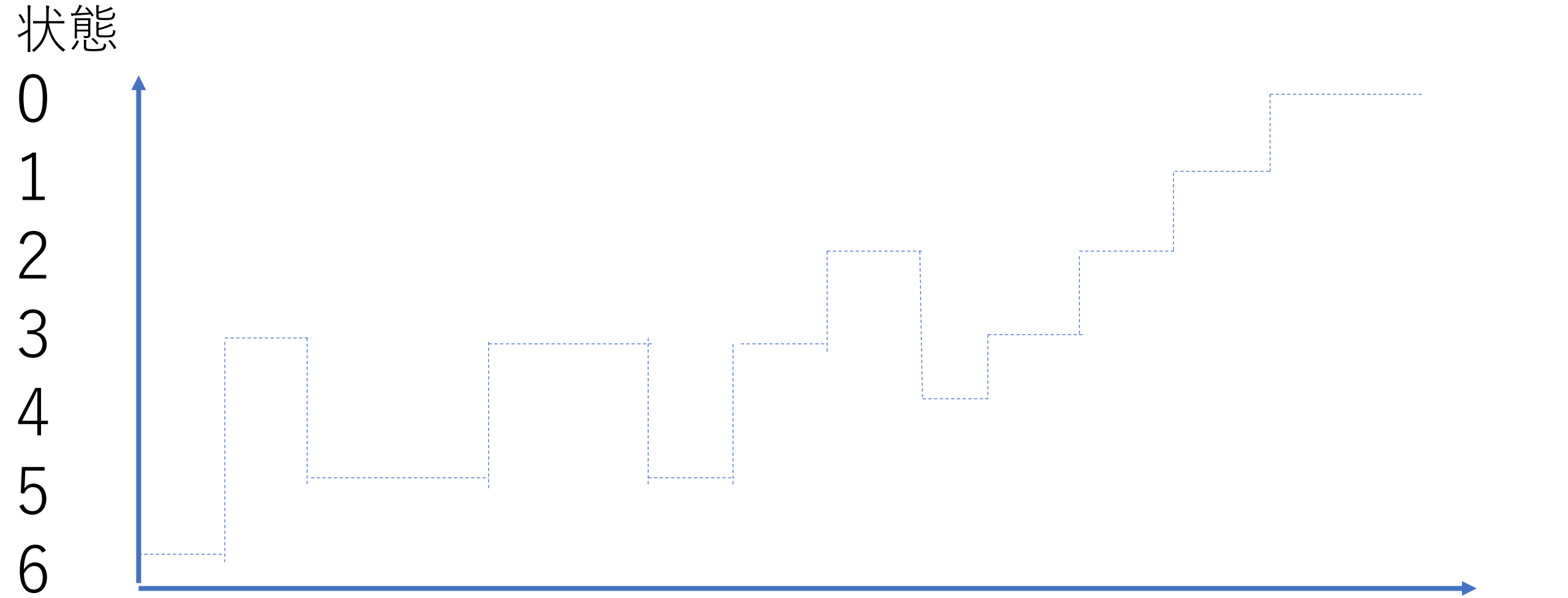
小児心身医学会ガイドライン集改訂第2版より

# 階段状の回復



子どもによって様々だが、不要な登校刺激が加わったり、  
周囲の方針が統一されていなかったりすると延長する

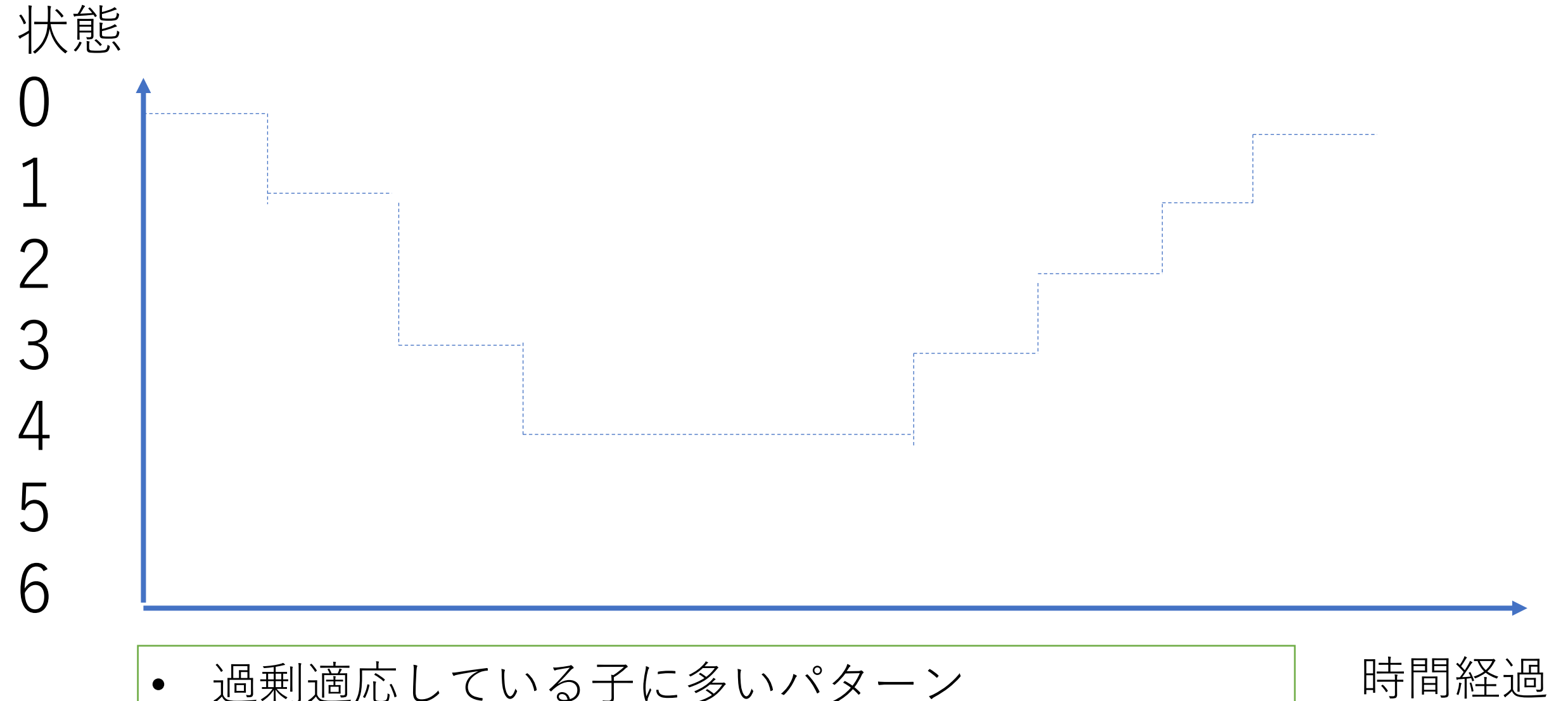
# らせん状の回復



- 本人が頑張りすぎたり、周囲が欲張りすぎたりしてることも
- 状態の悪化は失敗ではなく、試行錯誤の一環

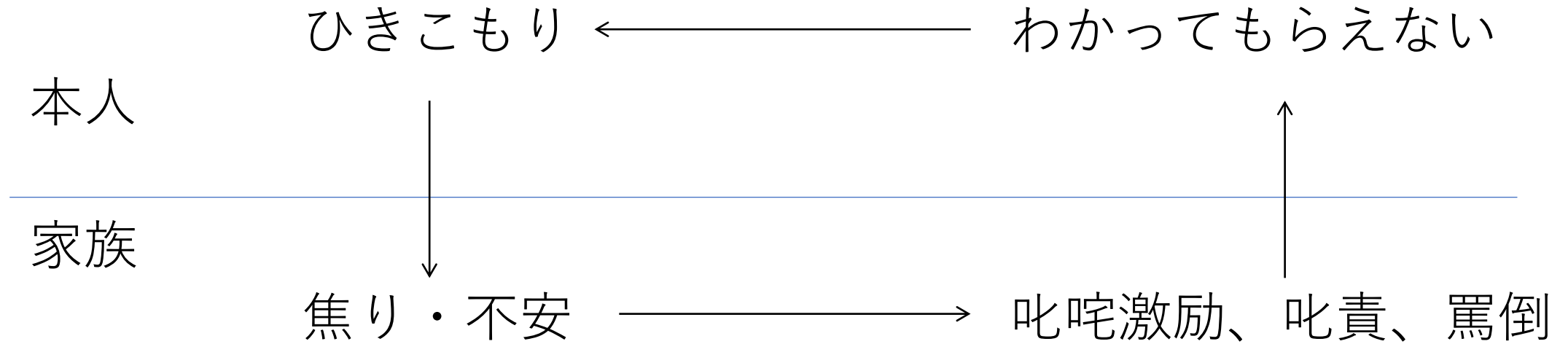
時間経過

# 一時後退してから回復



- 過剰適応している子に多いパターン
- 無理をして動かないことが本当の休養につながる

# 不登校・ひきこもりにおける 悪循環を起こす親子の関係性 その1

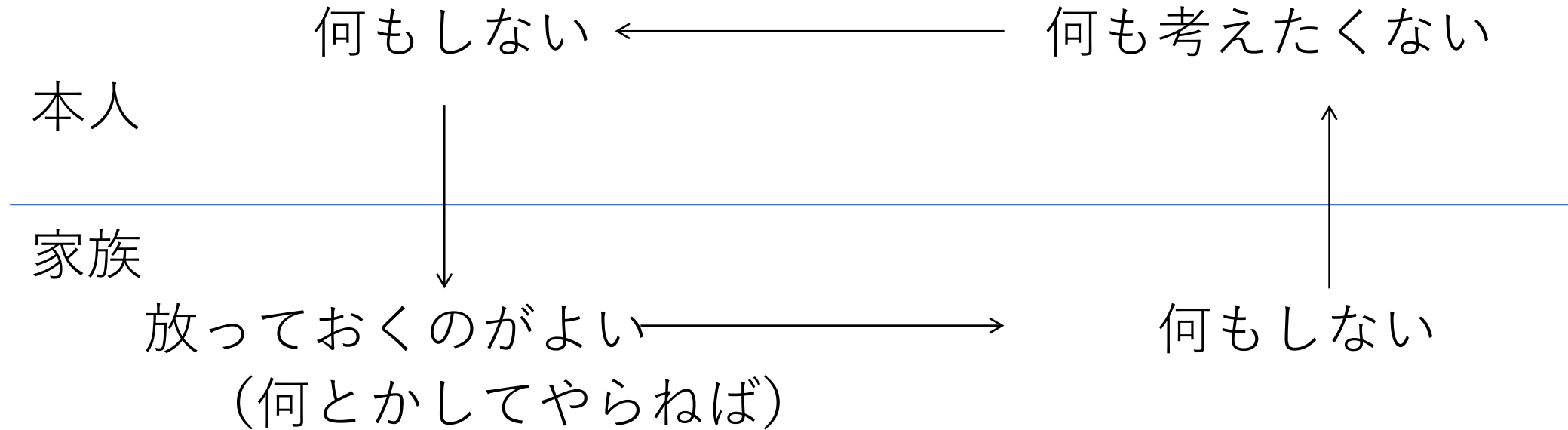


緊張関係を緩める

話し合える環境を取り戻す

全面的な受容・肯定は新たな悪循環につながりうる

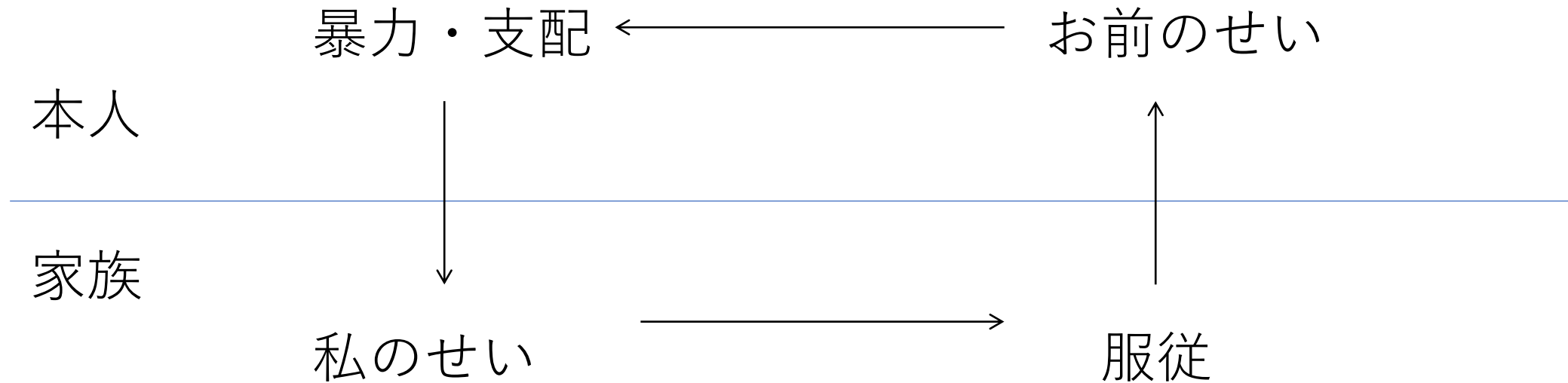
# 不登校・ひきこもりにおける 悪循環を起こす親子の関係性 その2



「今後の人生について考えさせる」ために必要な対処を探り出す  
ただし、説得ではなく、納得が必要



# 不登校・ひきこもりにおける 悪循環を起こす親子の関係性 その3



召使をやめる決心をしてもらう

配偶者や第三者を含めた暴力への対処を探り出す

# 行き渋り、不登校に役立つ支援

- 教育：学校、自立支援室、相談室、保健室、特別支援教育、教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、登校支援、適応指導教室、教育支援センター
- 公共施設：児童館、公民館など
- その他：習い事、ワークショップ
- 福祉：児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援 ※不登校そのものが対象となるわけではない  
居場所支援事業、青少年センター、ひきこもり支援センター、地域若者サポートステーション（サポステ）
- 医療：医療機関、訪問看護

# 今日のまとめ

- 周囲の心構えが大切。落ち着くこと  
“現状維持でも前に進んでいる”
- 原因の見立てをしっかりと行えば、対応も自然に見えてくる
- 正しい対応をすれば、登校できる、というものでもない  
⇨ 登校したら解決したのか？何がゴールなのか考える  
☆ 仲間、居場所、学習保障
- 保護者には「知識と人脈」が大切